

和をもって

第10号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

花から教わること

青嵐の候。皆様方にはお元気で過ごして
でしょうか。お伺い申し上げます。

早速ではありますが、三月に仙台に於いて西国札所会による東日本大震災一年に合わせ「平成の出開帳」が催されました。大きなアリーナで開催され、多くのお参りの方々と遠方から駆け付けてくださったボランティアの方々のお陰で無事成満出来ました。会場では観音様の前でお位牌を胸に抱き一心に祈りを捧げていられる方もいらっしゃいました。また個人的にも空いた時間に津波被害が酷かった地区をまわり、同行してくれた職員三人と共に追悼の祈りを捧げて廻る事が出来、お亡くなりになられた方々の菩提と一日も早い復興を祈るこの法要に参加出来ました事は、一生忘れることがない数日となりました。



をお願い致しております方で、成相寺の行事の折には何時も遠くより御参拝下さっております。御尊父様と成相寺先々代からの親子三代に渡るお付き合いで、たいそう長くお世話になっており、広い会場でも成相寺ご本尊様の前で再会できましたのも観音様の導きだったのでしよう。お久しぶりに拝見するお顔は、大震災という大変な思いをされたにも関わらず以前と同じように清々しくともおやさしく微笑んでおいででした。S様のご迷惑を顧みず早速にご自宅に伺いお仏壇にてお経をあげさせて頂いたのですが、その間は何十年間もの御縁のありがたさを思い、感慨深くまた何故か懐かしさを感じる貴重な時間となりました。S様そして奥様、本当にありがとうございました。

さて、話は変わりますが、今年も五月には境内のシャクナゲは二千年が咲きそろいました。しかし、十六年の台風被害でシヤクナゲを守っていた大木の大半が倒れてからは、強い陽射しやここ数年の豪雪で木がたいそう傷んでしまいました。花芽をつける木が半分になり、以前はうす桜色の霧のように境内一面を彩ったシヤクナゲが、今年には特に痛々しく感じられました。それでも細い枝に精一杯花芽を付けてけなげに咲いているシヤクナゲは、カメラを向けているご参拝の方々に何かしら訴えているように感じられました。

「花を弄べば香い袖に充る」これは先々代の哲真がよく揮毫致しました言葉です。そして老僧はこんな事を言っていました。「ワシは話が下手だから花に説法をしてもらうのじゃ」と、「花は美しい。只、一生懸命に花を咲かせろ」とも。老僧の法話は良く分かり迫力があるので有名でした。この言葉は「朱に交われれば赤くなる」という諺の良い方の意味とお考え下さい。とご説明致しておりますが、それだけでは無かったとこの頃思い知らされました。

『花を手に取り、その儂い命を抱き、只ひたすらに生きるこの大切さに気がついた時、人間は本当の美しさと大切な物を得られる。それは自然から受け取れる形のないもの。生きていくのに欠かせないもの。』



の。それを袖や懐に満たして明日も精一杯生きていこう。』
老僧はきつと、もつと大きな意味でこの言葉を書き続けたのであるうと思ひ至りました。目の前の出来事は日々変わり続ける。大きな自然の中で生きていく限り、それを留めようとしても手に負えない。自分の気持ちは変わらぬと思つてみるが、その気持ちも毎日同じではなく自身の変化に沿つて少しづつ変わっていく。全ては同じ所に留まつていない。だからこそ、自分というものをしっかり見つけ「只ひたすらに一生懸命に生きる」と言う事の大切さが身にしみてくるのです。

弘法大師様の言葉「生きていく。生かされていく。まさに自然からの頂きもので私達は生かされているのですね。美しい花を見て心が癒される。食事を頂いて気力が全身にみなぎる。生かされているのです。雪に倒されても又花を咲かせる木。川の氾濫で流されても又下流で芽を付ける花たち。この自然の恵みに対して私達から何かお返しを考えましょう。力強い命の繰り返しに。何時も貰うばかりでは申し訳ないので何かお礼を考えてみましょう。これが供養という気持ちに繋がっていく始まりなのです。私は色んな事に気づかせてくれたシヤクナゲに何をして恩返しをしようか。ただ今考え中です。(ちよつと小さいかな。)

南無観世音菩薩

合掌

山主 弘真



山内順礼第八回

パノラマ展望所

成相寺にお参り頂いた方でパノラマ展望所へ上がった方が必ず仰るのが「空を飛んでみたいいな気分がしました」というお言葉です。

この展望所は先代の昭真が平成元年に、自らシヨベルカーを運転して作りました展望所です。毎日山道を少しづつ広げて車が通れるようにし、又雨が降る度に地ならしをして多くの方に、このすばらしい景色を楽しんで頂けるようにと、冒険履きでダンプに乗って働いておりました父の姿が忘れられません。

台風や集中豪雨で道がえぐれて通行が困難になってきましたので、この度この展望所へ上がる道の全面舗装工事を行いました。

7月初めに開通式を行う予定と成っております。

勾配はいささか急ですが、178号線の国道からお寺へ上がる道の最後のカーブの様な大きな坂はなく、自家用車で上がっていただけます。

天橋立は神代の時代に天に架かるはしがが地上に落ちて出来たと言われております。眼下に伸びる松並木は自然の作り上げた最高の庭園の如く広がり、阿蘇海から大江山連峰。そして空気の澄んだ季節には遠く立山まで望めます。

まさに先代の昭真が願ったように「日本一のパノラマ展望所」です。皆様成相寺へお参りの折にはぜひ、この展望所にも上がってみて下さいませ。

御縁が

私事で大変恐縮では御座いますが、この度長男の龍真が高野山での修行を終えて成相寺に戻って参りました。御縁。まさに龍真は驚くほど多くの御縁に守られながらお大師様の元で修行が出来たようです。親戚の長男や、西国の御寺院の息子さん方も何人か学友として共に頑張ってきた様です。何より私の修行の時に大変お世話になった師僧の先生方にも親子二代で教えを頂く事となり、親子共々厳しくご指導頂いて、無事に阿闍梨に成らせて頂けました。

高野山という御山は不思議なところで、長く辛い修行の間は早く帰りたい。家に帰りたい。とその事が何時も頭をよぎりますが、いざ山から降りてしまうと、高野に戻りたい、寒くても良いから戻りたいな。と思えるのです。

御大師様に見守られて過ごしてきた一つ一つの出来事や思い出がかけがえのない物に思える所が、高野山なのです。そこで頂いたこの御縁は龍真に取っては一生の宝物です。

近年は西国巡礼のお参りの方の人数が激減してきております。西国札所の次代を担う若い僧侶達が共に机を並べて修業してきた友達というのは、当人達にも心強い物であると思います。卒業式の時の御法楽は一糸乱れぬ本当に美しく力強い般若心経でした。

今後とも皆様には宜しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

今後とも皆様の御縁を大切に、勤めていってくださることを、心より願っております。



表札のお申し込み受付中!!



ご本尊前にて、二十一日間、家内安全、開運厄除のご祈禱をし、各家へ発送致します。制作期間はご祈禱期間を含まして二ヶ月ほどかかります。

また、古い表札、不要になった表札等があれば当山までお送りください。お焚き上げさせて頂きます。表札の裏面には成相寺ご本尊、聖観世音菩薩様のお姿が入っております。